アンナ先生のLife in JAPAN

Vol.17

■ Anna・George（アンナ・ジョージ）
・1987年生まれ。英国ノーフォーク出身。
・2010年8月から只見町英語指導助手。
・小学校と中学校で語学の指導を行います。

ここ最近、夜になるとカエルさんたちの歌声が聞こえてきます。ということはもうすぐ夏がやってきます！今年はいろいろなアウトドアでの活動をしたいと考えています。登山をしようかとも考えています。イギリスには山がなく、今まであまり経験したことがないのです。

今月からまた小学校の英語の授業へ参加し始めました。今年度から英語の授業の中にプロジェクターを使って授業を進めるシステムが導入されました。児童のみなさんがこの新しいシステムでより楽しく英語の学習を進めてくれることを願っています。私もよくイギリスでコンピュータの使い方の指導をしていました。なので、私はこのような新しいテクノロジーを使って生徒に教えることはとてもよいことだと思います。

この5月は私の母と妹が日本を訪問しました。彼女たちは本当にすばらしい時間を過ごしていきました。彼女たちはもちろん日本食を食べていましたが、特にお寿司とカツ丼が気に入ったようです。お寿司はイギリスで食べると大変高価で日本の回転寿司店の値段の安さにとても驚いていました。しかし残念なことに、私の母は箸を使うのが苦手で少し困惑していました。でも帰国間際には結構上達していました。

昨年に引き続き、家庭菜園に挑戦しています。ズッキーニ、トマト、ピーマン、それとハーブも育てています。昨年失敗した教訓を生かし、今年は昨年より上手にできればいいなと思っています。また、ケイトウの花も育てています。この花は私が日本に来るまで見たことがないものでした。

6月に中学校の部活動の大会が開催されます。私は生徒たちが一生懸命戦っている姿を見るのが大好きです。みんながすばらしい試合をしてくれることを期待しています。

（訳・只見中・平野）

広報ただみ診療所

『健康診断　受けた「後」が大切！』

朝日診療所
医師　菅家　智史

皆さんこんにちは。朝日診療所医師の菅家です。昨年より只見町職員として勤務しておりましたが、この4月から福島医大「地域・家庭医療学講座」の助手に着任しました。役職は変わりましたが、朝日診療所での診療は今年度も継続しています。転任していなくなったのではないか、とご心配頂いた方もいらっしゃいました。週に2日ほど福島医大に行っており不在のこともありますが、今後ともどうぞよろしくお願いします。

さて今回は、健康診断を受けた「後」の話をしたいと思います。4月から5月にかけて、特定健診、がん検診などが、町内各地区で行われていました。それ以外にも、それぞれの会社や、個人的に健康診断・人間ドッグなどを受けている方も多いと思います。その結果が届いたら、あなたはどうしていますか？

「要精査」「要医療」「▲」など、診察を勧められていたけれど、医者から悪いことを言われるんじゃないかと怖くて診療所に行けない、何だか忙しくて受診しないでそのまま、なんていうことはありませんか？届いたけどちゃんと見ていない、なんていう人はいませんか？

結論から言えば、健康診断・がん検診を「受けただけ」では、健康にはなりません。受けた後、結果を読んで、今後どのようにしたらよいかを考えましょう。そうでなければ、健康診断・がん検診の結果用紙が無駄になってしまいます。

とはいえ、健康診断・がん検診の用紙を読んで、全て理解するのはなかなか難しいと思います。そこで私たちの出番です。朝日診療所では、かかりつけの患者さん皆さんに、健康診断の結果用紙を持参いただくようおすすめしています。結果用紙を一緒に確認しながら、追加検査の必要性を考えたり、診療所で行う検査を省略したり、効率的に皆さんの健康を増進できるよう役立てたいと考えています。

もちろん、朝日診療所がかかりつけでなくても、健康診断・がん検診・人間ドッグ等の結果用紙を持ってきて受診いただければ、一緒に見ながら相談させて頂きます。健康診断は、受けた「後」が大切ですよ！